

当院での非 Brugada 型特発性心室細動症例に対する アブレーション経験

中野 誠 長谷部雄飛 木村義隆 深澤恭之朗
千葉貴彦 三木景太 下川宏明

当院では、2006年1月より2017年11月までの間に、非 Brugada 型特発性心室細動症例 2 症例に対してカテーテルアブレーションを施行した。1例は心室細動蘇生後の症例で、植込み型除細動器 (ICD) 植込み後、病棟モニターで心室期外収縮 (PVC) がトリガーとなって VF が誘発されている波形が認められた。右室流出路起源の PVC に対するアブレーション後、ICD 適切作動なく経過している。もう 1 例は失神症例であり、やはり入院後のモニターで、PVC がトリガーとなる NSVF (polymorphic VT) を認め、失神の原因と考えられた。Pacemap は右室下壁で一致し、同部位には比較的発達した肉柱を認め、PVC 起源との関与が疑われた。エコーガイド下に肉柱とその周辺に対して焼灼を施行、以後失神なく経過している。非 Brugada 型特発性心室細動症例においては、Brugada 症候群と異なり、明らかな電気生理学的器質へのアプローチは定まっていないが、VF のトリガーとなりうる PVC を認める症例においては、アブレーションが有効な治療オプションになりうると考えられた。

Keywords

- 特発性心室細動
- 非 Brugada 型
- カテーテルアブレーション

東北大学大学院循環器内科学
(〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町 1-1)

Radiofrequency Catheter Ablation for Idiopathic Ventricular Fibrillation Patients with Non-Brugada Electrogram
Makoto Nakano, Yuhi Hasebe, Yoshitaka Kimura, Kyoshiro Fukasawa, Takahiko Chiba, Keita Miki, Hiroaki Shimokawa